

平成22年 4月 14日現在

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2007～2010

課題番号：19500855

研究課題名 (和文) 戦間期における日本の化学研究の展開について 史的な研究

研究課題名 (英文) Historical Studies on Research in Chemistry in Inter-war Period in Japan

研究代表者

梶 雅範 (KAJI MASANORI)

東京工業大学・大学院社会理工学研究科・准教授

研究者番号：00211839

研究代表者の専門分野：科学史

科研費の分科・細目：科学社会学・科学技術史

キーワード：日本科学史・化学史・野副鐵男・眞島利行

## 1. 研究計画の概要

本研究は、1920年代-1930年代における日本の化学研究の展開を具体的に分析することによって、導入された近代化学が日本でどのような自律的展開を見せたのか、それが戦間期の社会状況によってどのような影響を受けたかを明らかにすることをめざす。とくに、

(1) この時期に本格的な化学研究を展開し始めた代表的な日本の化学者の研究の分析を行い、また (2) 日本自体の「周辺」の化学研究として、日本の植民地での研究展開、とくに台湾の台北帝国大学での化学研究の展開をとりあげ、日本の「中央」との関係を分析し比較し、(3) 日本と他の国の化学者たちの学術交流を分析する。

## 2. 研究の進捗状況

まず、1の(2)の課題に関して、台北帝国大学における有機化学者野副鐵男のヒノキチオール研究について、台湾での調査を含め詳しく検討し発表論文にまとめることが出来た。現在は、(1)に関して東北帝国大学の眞島利行の日記のコピーを入手し、その解読中で、眞島の日記に見られる彼の日常と彼の研究との関係について分析を進めている。また(3)の関しても、ヨーロッパでの文書館調査で関係する重要な史料を発見することが出来た。研究の最終段階で新発見史料の分析を行う予定でいる。

## 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進んでいる。

(理由) 計画した課題に関係した史料の収集が新発見のものを含め、順調に進めることが出来たため。

## 4. 今後の研究の推進方策

眞島利行の日記の分析を進めるとともに、ウルシオール研究を中心に彼の天然物化学研究の再検討をする。またパリで発見した高橋純一関係史料の解読を行う。それらにもとに最終年度にまとめを行う。

## 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

(1) Masanori Kaji, "Nozoe Tetsuo's Chemical Research at Taihoku Imperial University in Taiwan and Its Colonial Context," *Historia Scientiarum*, vol. 18-2 (2008) 132-139. 査読有

(2) Masanori KAJI, "V. I. Vernadskii and the Introduction of Geochemistry into Japan," *JAHIGEO (Japanese Association for the History of Geology) Newsletter* No.10, 2-9 (May, 2008).

査読有

[学会発表] (計4件)

(1) 梶 雅範「台湾における野副鐵男によるヒノキチオール研究」大阪府豊中市、大阪大学豊中キャンパス、化学史学会研究発表会、2009年7月5日

(2) Masanori Kaji, "Tetsuo Nozoe's Chemical Research at the Taihoku Imperial University in Taiwan and Its Colonial Context," The 12th International Conference of the History of Science in East Asia, Johns Hopkins University in Baltimore, Maryland, U.S. A., July 17, 2008.

(3) Masanori Kaji, "Tetsuo Nozoe's Chemical Research at the Taihoku Imperial University in Taiwan and Its Colonial Context," Locating Japanese Science and Technology: Place and the Production of Knowledge, Johns Hopkins University in Baltimore, Maryland, U.S. A., January 19, 2008.

(4) Masanori Kaji, "The Development of Organic Chemistry in Japan: Riko Majima and His Research School of Natural Products Chemistry in the First Half of the 20th Century," The 6th International Conference on the History of Chemistry, Leuven, Belgium, August 30, 2007.